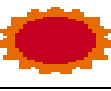


1. 2019年7月～9月期の景気動向

今期のDI平均値は△36.6ポイントで、卸売業では21ポイントのマイナスとなり、前期1～3月期の△31.8ポイントから4.8ポイントマイナスとなった。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 31 (△ 25) 	△ 44 (△ 31) 	△ 52 (△ 39) 	△ 23 (△ 32) 	△ 51 (△ 56) 	△ 25 (△ 33) 	△ 53 (△ 43) 	△ 61 (△ 43) 	△ 6 (△ 17) 	△ 38 (△ 33) 
採算		△ 24 (△ 38) 	△ 32 (△ 44) 	△ 49 (△ 39) 	△ 24 (△ 41) 	△ 37 (△ 56) 	△ 62 (△ 33) 	△ 52 (△ 46) 	△ 58 (△ 42) 	△ 5 (△ 39) 	△ 33 (△ 35) 
資金繰り		△ 13 (△ 6) 	△ 19 (0) 	△ 28 (△ 20) 	△ 24 (△ 18) 	△ 25 (△ 33) 	△ 25 (△ 22) 	△ 33 (△ 28) 	△ 37 (△ 32) 	△ 24 (△ 28) 	△ 35 (△ 28) 
業況		△ 24 (△ 25) 	△ 50 (△ 38) 	△ 46 (△ 37) 	△ 21 (△ 38) 	△ 24 (△ 56) 	△ 37 (△ 33) 	△ 36 (△ 46) 	△ 60 (△ 46) 	△ 11 (△ 19) 	△ 29 (△ 20) 
経営上の 当面する 問題点	1位	民間需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応	
	2位	官公需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		販売単価の低下		消費者ニーズの変化への対応		大企業の進出による競争の激化	
	3位	熟練技術者の確保難		原材料価格の上昇		従業員の確保難		購買力の他地域への流出		店舗施設の狭隘・老朽化	
業種別 コメント		今期の業況は消費税率引き上げ前の駆け込み需要があり、住宅などの設備工事は好調であったが、全体的にはほぼ横ばいである。 深刻な人手不足が人件費の増加や受注機会の損失につながっており、来期見通しについては売上、資金繰り、業況の各項目で大幅にマイナスとなった。		今期は売上高で13ポイントマイナスとなったほか、原材料価格の上昇などにより各項目でマイナスとなった。 今後も人手不足への対応やニーズの変化に対応するための設備投資の必要性など課題は多い。 しかし、業務効率化、生産性の向上に取り組んでいる事業所が多く、来期見通しについては各項目とも回復傾向にある。		業況については前期△56ポイントから今期△24ポイントと大きくマイナス幅が減少した。 その他の項目についても消費税率引き上げ前の駆け込み需要の影響で回復傾向が見られた。 来期見通しについては新規参入企業や大手企業との競争により販売単価の低下が予想され、採算は29ポイントマイナスとなっている。		今期は売上高、採算、資金繰りの各項目で悪化となった。 来期見通しについても消費の冷え込みが予想され、厳しい状況が続くと見られる。 キャッシュレス決済ポイント還元事業や市、商工会議所が発行するプレミアム商品券による需要の底上げが期待される。		夏祭りやお盆の帰省シーズンで、天候にも恵まれ各項目ともに回復傾向が見られた。 しかし、人手不足や最低賃金の上昇、消費税率引き上げによる消費の冷え込みなど経営を圧迫する要因が多く、業況についての見通しはマイナス9ポイントとなっている。 年末商戦に向けての集客、売上増加策としてイベント実施や宣伝広告が必要である。	

				
とくに好調 (50≦DI)	好調 (25≦DI<50)	まあまあ (0≦DI<25)	不振 (△25≦DI<0)	きわめて不振 (DI<△25)

※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※()は前回調査時のD・I値